和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第22号
2020年12月7日

SG 課題研究Ⅱ・フィールドワーク（7）
移民難民分野・その１

♦全体研修
(1)国際協力理解講座
講師　日高振興局総務県民課　庄田実里 主事
(2)難民理解オンライン講座
講師　難民事業本部関西支部　中尾秀一 氏

♦主なフィールドワーク先
・アメリカ村カナダミュージアム　・御坊市内各店舗
・和歌山城　・有田川町アレック

全体研修（１）　国際協力理解講座

概要

ＪＩＣＡ（独立行政法人国際協力機構）海外ボランティアとしてキルギスでの協力隊経験を持つ、現日高振興局総務県民課の庄田実里主事を招き、講義を受けた。「御坊生まれのわたしが世界へ出てわかったこと」と題した講義は、キルギス語を使ったり、クイズを交えたりしながら、終始、笑顔で躍動感満載の時間となった。「何かやってみる。少しでも変化が起これば何かが変わる。言葉がわからなくて伝えようとすれば相手に伝わる」など、随所に力強いメッセージが織り込まれ、生徒たちはそれぞれに感銘を受けたようである。

活動報告　B01 班　「移民と教育」２年５組　成瀬らな

庄田さんの「小さなことからでも何かを始めれば何かしらの変化が起こる。その変化がマイナスであっても、そこから頑張ろうという気持ちが起こるから大丈夫。現状のまま動かずにいるのが一番だめだ」という言葉がとても心に残っています。今、移民の教育について調べていくなかでも、大きくプラスに見えることはとても少なく、このままで良いのかと思うことも多々ありますが、小さなことでも少しずつ課題解決に向けて取り組んでいこうと思えました。

全体研修後、私たちの班はカナダミュージアムを訪れました。展示を見て、カナダと日本の繋がりはもちろんですが、私はそこに人と人との繋がりを強く感じました。国を超えた人々の繋がりという大きなテーマで見ると見栄えは良いですが、アメリカ村にはそんなことを意識させないような、ただ、人と人との繋がりがあっただろうと感じさせるものがありました。きっと、異なる文化が共存する場所にはそういう繋がりがあり、私たちもその繋がりを感じて、そのうえで考えていくことも必要だと思いました。「分けて」考えるのではなく、同じ「人」として考えながら、テーマに取り組んでいきます。